



法学部の
取り組み
02

明治大学法学部における 法曹一貫教育プログラム

— いわゆる「法曹コース3+2」の概要について —

法学部教務主任
柳川 鋭士 YANAGAWA Eiji
法学部准教授
専門：民事手続法



法学部の
取り組み
01

2022年度法学部 カリキュラム改正について

法学部カリキュラム運営専門部会長
江藤 英樹 ETO Hideki
法学部准教授
専門：憲法学

今 回のカリキュラム改正は、一つ目に「人間性・国際性に裏打ちされたリーガル・マインドの育成」という法学部の教育理念に基づき、現代的要請に適した法学士の学位にふさわしいカリキュラムを構築・提供すること、二つ目に各コースの特色を明確にするともに、卒業後の将来像を学生および社会に対し、より明確に見せることを目指しました。

改正内容は大きく、「コース制の見直し」、「総合教養科目の再編成」、「初年次教育の改正」、「卒業要件等の一部変更」の4点です。

1つ目の「コース制の見直し」では、法曹コースを除く4コースで「コース必修科目を8単位」に統一し、その上で各コースの「必修科目と選択必修科目」を再考し、これ以外の科目はその位置付けを見直すことで、各コースの特色をより明確に分かりやすくしました。

2つ目の「総合教養科目の再編成」では、旧カリキュラムの4つ

の科目群を一体化した「教養科目群」を新しく構築しました。ここには、課題解決のための着想や多様な学問のアプローチを学ぶための基礎的な知識・技法を修得する「基礎科目（和泉開講）」と、探究のために必要となる高度な知識・技能を修得する「発展科目（駿河台開講）」を配置し、1年次から4年次まで発展的に学べるようにしました。

3つ目の「初年次教育の改正」については、これまでの「日本語文献精読Ⅰ・Ⅱ」と「アカデミックライティング」を統廃合し、春・秋学期各2単位の新規科目「法学部生のための日本語Ⅰ・Ⅱ」を設けました。リーディング＋ライティングの組み合わせによる相乗効果に期待をしています。

最後に「卒業要件等の一部変更」では、前記1から3を通して、学生にとって「わかりやすいカリキュラム」を目

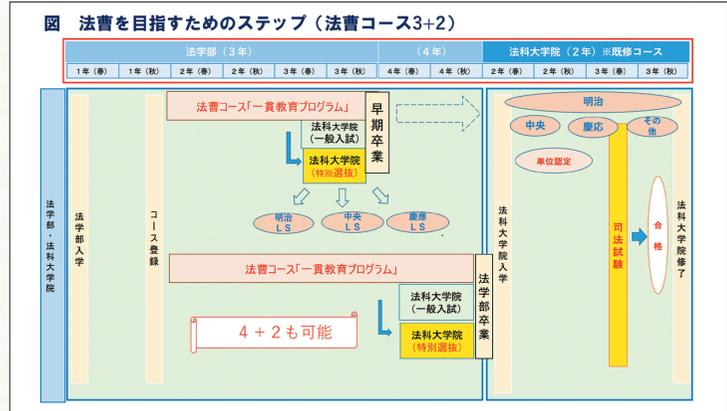


指しました。興味・関心を持った科目を学んだ上で卒業してもらいたいと考えています。

ただし、カリキュラム改正に正解はありません。今後も当学部の未来を見据えながら、中・長期的な展望のもと、社会的ニーズにも配慮しながら継続的・多角的に検討を行わなければならないと考えています。

「法曹コース3+2」とは、法学部の「法曹コース」における学部3年間（大学を3年で早期卒業）と法科大学院における2年間の合計5年間の一貫性・体系性のある課程を修了することによって司法試験受験資格を得られるという制度を指す。この制度は司法試験受験生の経済的及び時間的負担を軽減することを目的としている。明治大学ではこの「法曹コース3+2」を法曹コース「一貫教育プログラム」と称して、2020年度法学部入学者から本格的に実施している。

明治大学法学部における法曹コース「一貫教育プログラム」の概要は、図に示すとおりである。明治大学法学部は、明治大学法科大学院、中央大学法科大学院、慶應義塾大学法科大学院との間で連携協定を締結しているため、明治大学法学部の学生は、法曹コース「一貫



教育プログラム」により、前記の各大学院への進学が可能となる。

図の時系列に従って、同プログラムにより法学部3年早期卒業後に明治大学法科大学院進学の場合を前提として説明する。1年次秋学期に、2年次より開始するコース制（法曹コース、公共法務コース、ビジネスローコース、国際関係法コース、法と情報コース）の中から法曹コースを選択する。法曹コースを選択した学生の中で、「一貫教育プログラム修了要件」を満たした場合、法科大学院が実施する「法科大学院特別選抜」試験（5年一貫型特別選抜入学試験…法曹コースの論文式試験を実施せず法曹コースの成績等を重視して選抜する方式）を受験することができる。法学部で修得した一部の科目については、法科大学院にて単位認定を受けることができ、また、法科大学院進学後に一定の要件を満たした者は、法科大学院在学中に司法試験を受験できる。

昨年度の3年次早期卒業者が一貫教育プログラムにより慶應義塾大学法科大学院に進学している。本年度は、同プログラム修了を目指す者が増えており、明治大学法科大学院、中央大学法科大学院に進学する学生も見込まれる。